目次

統計データの追跡 1

統計データの追跡: イントロダクション 1

トレース フィールドの使用 1

TRACEFIELD コマンドの挿入 2

Q-DAS トレースフィールドの挿入 14

統計を Q-DAS データベースに送信すること 16

現時点での統計をファイルに送付 19

「統計オプション」ダイアログ ボックスの使用 20

統計オプション 21

データベースのオプション 29

ローカル Datapage の+のデータベースにデータを発送します。 39

DataPageStats.Exe で統計データを XML ファイルへ送信 42

XMLSTATS/ON で統計データを XML ファイルへ送信 42

支援された方法のテーブル 45

Q-DAS チャートコマンドの使用 47

統計データの追跡

統計データの追跡: イントロダクション

PC-DMIS では、測定されたパーツの統計データを追跡、及び、管理することができます。すべての測定結果または追跡フィールドの情報は測定結果または追跡フィールド前の STATS コマンドの挿入で選択された統計ソフトウェアパッケージに発送されます。代わりに、XMLSTATS コマンドを使用すると統計データをテキストベースの XML ファイルへ送信することも可能です。

この章では、主に以下のトピックについて説明します。

- トレース フィールドの使用
- 現時点での統計をファイルに送付
- 「統計オプション」ダイアログ ボックスの使用
- データをローカル Datapage+のデータベースに発送する
- DataPageStats.Exe で統計データを XML ファイルへ送信
- XMLSTATS/ON で統計データを XML ファイルへ送信
- 支援された方法のテーブル
- Q-DAS チャートコマンドの使用

トレース フィールドの使用

PC- DMIS は、トレースフィールドを使用して、測定結果と一緒に、統計データベースに追加情報を送信します。トレースフィールドは、名称、メッセージ、および値から構成されます。

トレースフィールドでは、以下の項目を使用できます

[トレースフィールド]ダイアログボックス - このダイアログボックスを使って、[編集]ウィンドウで TRACEFIELD コマンドを挿入できます。このダイアログボックスの詳細については、「トレースフィールドの挿入」を参照してください。

変数のトレース値を読み込む - 変数からトレース値を取得するには、GETTRACEVALUE ( ) 関数を使用します。変数からトレース値を読み取る方法の詳細については、「式と変数の使用」章の「文字列関数」の「GETTRACEVALUE ( ) 」を参照してください。

Q-DAS トレース - Q-DAS トレースフィールドを挿入し、K-Field 情報をデータベースに送信することができます。Q-DAS トレースフィールドの挿入方法の詳細については、「Q-DAS トレースフィールドの挿入」を参照してください。

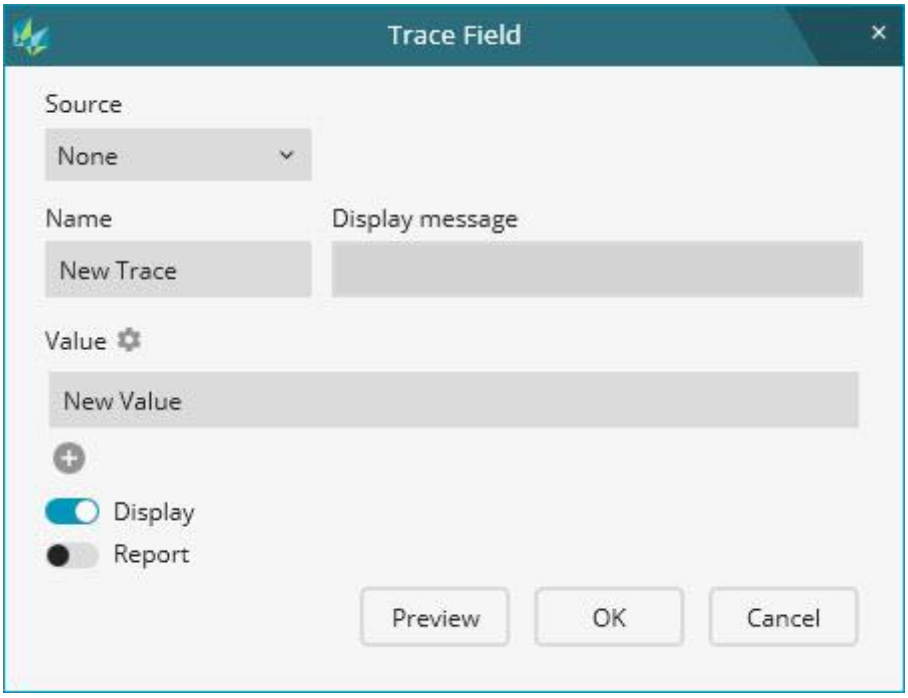
レポートヘッダーで使用されるトレース - この項目によってレポートヘッダーに値を表示できます。レポートヘッダーでトレースフィールドを使用する方法の詳細については、「測定結果のレポート」章の「変数の値の表示」の「変数とヘッダー」を参照してください。

TRACEFIELD コマンドの挿入

[トレースのフィールド]ダイアログボックスでは、[編集]ウィンドウで TRACEFIELD コマンドを挿入できます。 (編集ウィンドウに手動でコマンドを入力することもできます) 。

トレースフィールドダイアログボックス

「**挿入|統計コマンド |トレースフィールド**を選択して、**トレースフィールド**ダイアログボックスを開きます。



トレースフィールドダイアログ ボックス

ソース - この一覧は、PC-DMIS がトレースフィールド情報を取得する場所を定義します。

> **なし** - このオプションを使用すると、トレース名、表示メッセージおよび値をダイアログボックスに入力できます。
>
> **Q-DAS** - このオプションは、Q-DAS 構成ファイルからトレースフィールド情報を読み取ります。このオプションは、測定ルーチンの `STATS/ON,Q-DAS` コマンドの後に `TRACEFIELD` コマンドを挿入した場合にのみ使用できます。Q-DAS 構成ファイルの作成方法の詳細については、Q-DAS Configurator のヘルプファイルを参照してください。

名称 - このボックスは、トレースフィールドの名称を定義します。

> 「**ソース**」一覧から「**なし**」を選択した場合は、ボックスにトレース名を入力します。

ソース一覧から **Q-DAS** を選択すると、**名前**ボックスはドロップダウンリストになります。一覧から、トレース名を選択します。

ドロップダウン一覧には、Q-DAS 設定ファイルのトレース名が表示されます。(**統計/ON Q-DAS** ダイアログボックスから異なる設定ファイルを選択できます)。

各トレース名には、K フィールドの説明に関する情報を提供するツールヒントが表示されます。

メッセージの表示 - このメッセージは、PC-DMIS が実行中にトレースに対して表示するメッセージです。

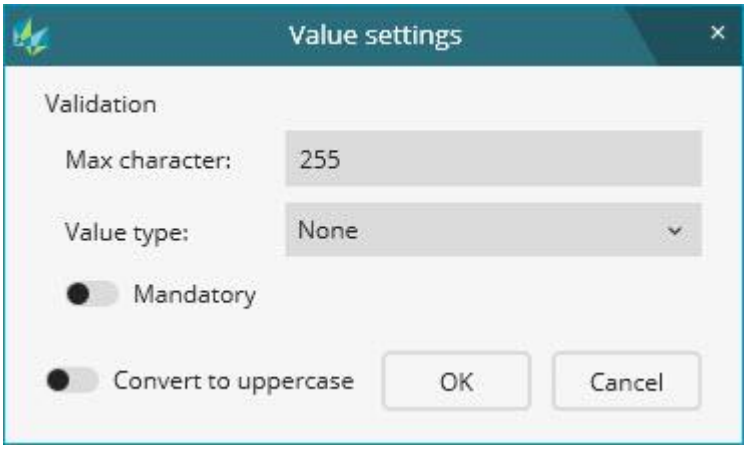
[**ソース**]一覧から[**なし**]を選択すると、ボックスにメッセージを入力します。

「**ソース**」一覧から「**Q-DAS**」を選択すると、「**メッセーをジ表示**ボックスに Q-DAS 設定ファイルのトレース名の説明が表示されます。この説明は編集できません。

値 - このボックスは、トレースフィールドの値を定義します。ユーザは値の設定を定義することができます。

[**値の設定**]アイコン ( ) をクリックして、[**値の設定**]ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスでは、値の設定を定義できます。[**値**]ボックスに値を入力すると、PC-DMIS は設定値を検証します。

[ソース]一覧から[**Q-DAS**]を選択すると、[**値の設定**]ダイアログボックスで設定を定義することはできません。PC-DMIS は、設定ファイルの選択に基づいて値を検証します。



値の設定ダイアログボックス

最大文字 - このオプションは、値の最大文字数を定義します。1 から 255 までの任意の数値を入力できます。デフォルト値は 255 です。

値のタイプ - このオプションは値のタイプを定義します。一覧から、タイプを選択することができます。

なし - このタイプでは、**最大文字**ボックスに設定された文字数で任意の値を入力できます。

整数 - このタイプでは整数を入力できます。

浮動 - このタイプでは 10 進数の値を入力できます。

日付/時刻（dd.MM.yyyy [/HH:mm:ss]） - この形式では、日付と時刻を次の形式で入力できます。

dd.MM.yyyy/HH:mm:ss or dd.MM.yyyy

この説明

dd – 日付を数字で表示します。1 桁の日付には先頭のゼロを使用します。

MM – 月を数字で表示、一桁の月の場合は先頭にゼロを付けます。

yyyy – 年を 4 桁数字で表示します。

HH - 24 時間表示の時間、一桁の時間の場合は先頭にゼロを付けます。例えば、午前 9 時は 9:00 で表記されます。1 PM は 13:00 で表記されます。

mm - 分間を表示し、一桁の場合に先頭にゼロを付けます。

ss - 一桁の場合に先頭にゼロを付ける秒間表記です。

英数字 - このオプションでは、文字や小数点などの文字を入力できます。

ファイル名 - このタイプを使用すると、コンピュータのオペレーティングシステムに基づいてファイル名を入力できます。

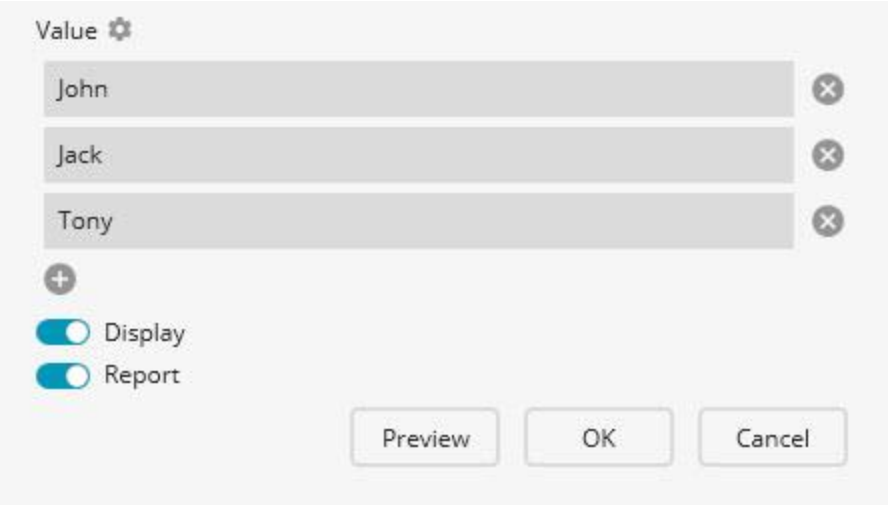
Windows 10 オペレーティングシステムでは、ファイル名には、\、/、：、*、？、"、<、>、|などの文字は使用できません。

強制 - このスイッチは、作業者が実行中にトレースをスキップできるかどうかを決定します。スイッチをオンにすると、作業者は実行中にトレースをスキップできず、値を入力する必要があります。

大文字に変換 - このスイッチは、値の文字を大文字に変換します。

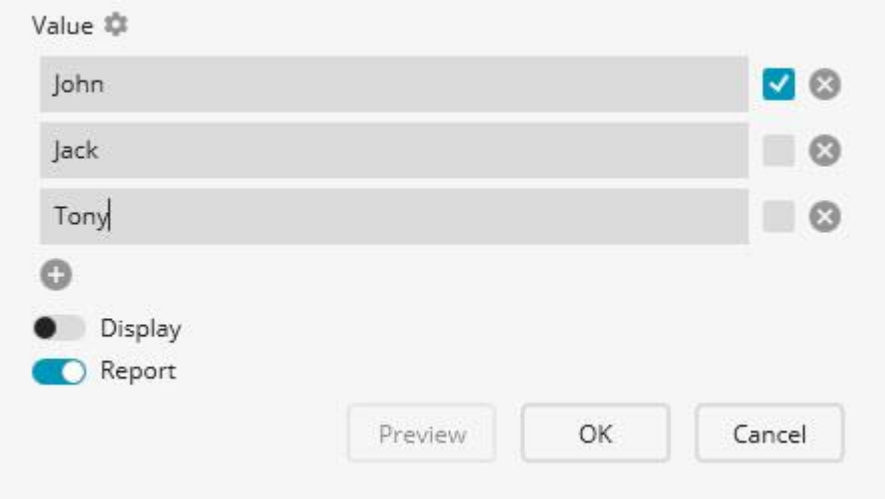
単一の値を持つことも、値の複数行を持つこともできます。値の行を追加するには、**[追加]**ボタンをクリックします。

- **表示**スイッチがオンの場合、PC-DMIS は各行に[**除去**]ボタン（ ）を追加します。



実行中に、最初の行の値は選択された値になります。PC-DMIS が実行中にダイアログボックスを表示するときには、一覧から値を変更することができます。それ以外の場合、PC-DMIS は選択された値を統計データベースに送信します。

- **表示**スイッチがオフの場合、PC-DMIS は各行にチェックボックス及び**除去**ボタン（ ）を追加します。



選択値として値を設定するには、値の横にあるチェックボックスをオンにします。実行中に、PC-DMIS はこの値を選択値として表示します。

実行中にダイアログボックスを非表示にし、選択された値を統計データベースに送信するには、[**トレースフィールド**]ダイアログボックスの[**表示**]スイッチをオフにします。

値の行を削除するには、[**削除**]ボタンをクリックします。

表示 - このスイッチは、実行中に[**トレースフィールド**]ダイアログボックスを表示または非表示にします。[**トレースフィールド**]ダイアログボックスを非表示にすると、PC-DMIS は作業者が値を入力または選択するためのダイアログボックスを表示しません。PC-DMIS は現時点の値を統計ソフトウェアに送信します。

レポート - このスイッチは測定レポートにおけるトレースの名前とその値を表示または非表示にします。

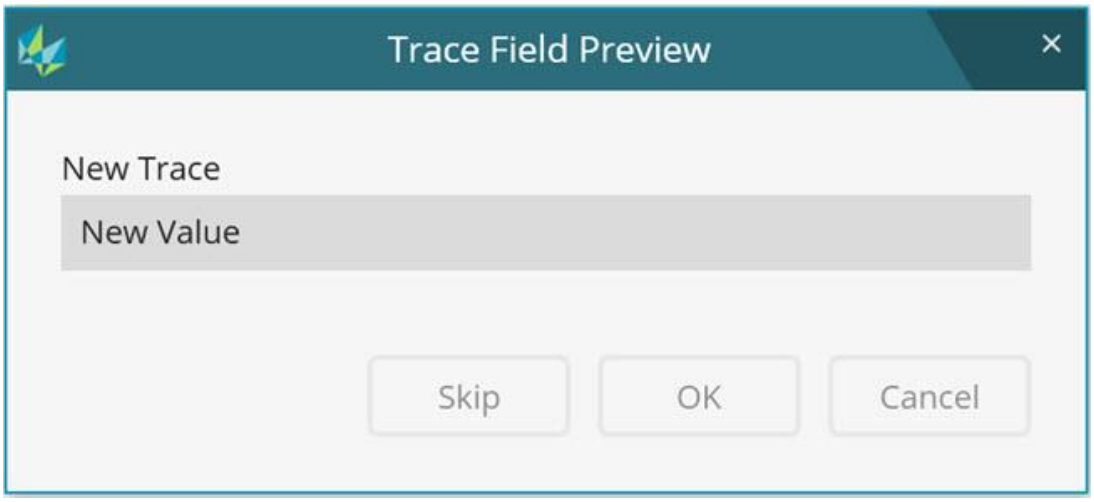
- トレースフィールド名が作業者であり、値が Sam でソースが「なし」である場合、レポートは以下のように表示します

```
トレースフィールド 作業者 = サム
```

- トレースフィールド名が K0008 であり、値が Sam でソースが「Q-DAS」である場合、レポートは以下のように表示します

```
トレースフィールド ソース = Q-DAS, K0008 = Sam
```

プレビュー - このボタンを使用すると、[**トレースフィールドのプレビュー**]ダイアログボックスでトレースフィールドをプレビューできます。



[トレースフィールドのプレビュー]ダイアログボックス

プレビューダイアログボックスは、実行中に PC-DMIS が表示する実際の**トレースフィールド**ダイアログボックスに似ています。×をクリックして、プレビューを閉じます。

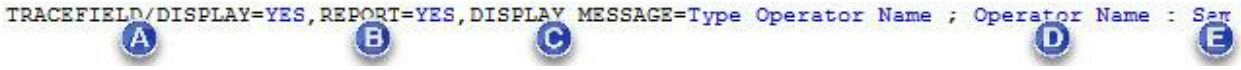
編集ウィンドウの TRACEFIELD コマンドの例を次に示されます：

```
TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=作業者名を入力 ;
作業者 : Sam
TTRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=バッチ番号 / 識別
番号 ; K0006 :
```

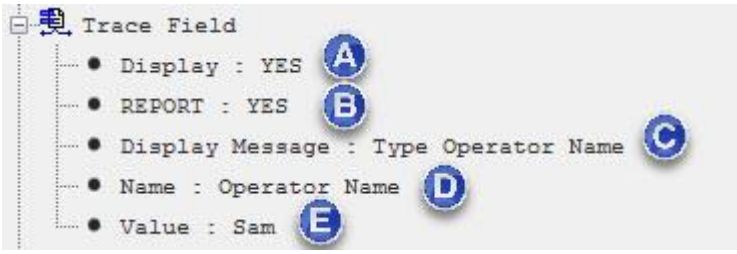
*編集ウィンドウにおける **TRACEFIELD** コマンド*

編集ウィンドウを使用して、トレースフィールドの名前、表示メッセージ、および現在の値を変更することもできます。

TRACEFIELD コマンドの編集ウィンドウコマンド行は以下のようになります



コマンドモードでの TRACEFIELD コマンド



要約モードでの TRACEFIELD コマンド

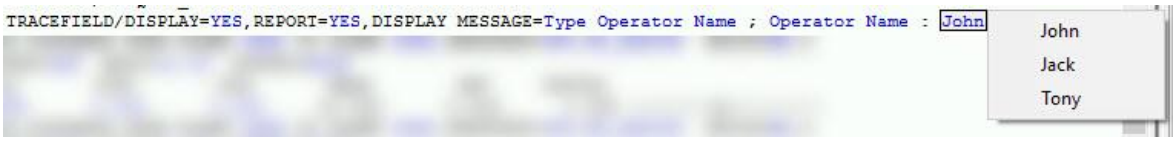
A. **表示** - このトグルフィールドは、実行中に**トレースフィールド**ダイアログボックスを表示するかどうかを制御します。このフィールドは、YES と NO の間で切り替わります。
B. **レポート** - このトグルフィールドは測定レポートにおけるトレースの名前とその値を表示するかどうかをコントロールします。このフィールドは、YES と NO の間で切り替わります。
C. **メッセージの表示** - 実行中にトレースフィールドに表示されるメッセージを保持します。
D. **名称** - このフィールドには、トレースフィールドの名称を表示します。
E. **値** - このフィールドは、トレースフィールドの現時点の値を保持します。

「**ソース**」を「**なし**」に設定すると、トレース名を入力または編集したり、メッセージおよび値を表示したりするができます。

ソースを **Q-DAS** として選択すると、**名前**はドロップダウンリストになります。ドロップダウンリストから、トレース名を選択します。

行ごとに単一の値を持つ場合は、その値を入力または編集できます。

それぞれに独自の値を持つ複数行がある場合は、使用可能な値の値から値を選択できます。



変数の使用

次の条件の下で、TRACEFIELD コマンドのフィールドで変数を使用できます：

- 以前に使用したい変数は、TRACEFIELD コマンドの上のルーチンで定義する必要があります。
- 編集ウィンドウまたはダイアログボックスの TRACEFIELD コマンドの対応するフィールドに変数名を入力する必要があります。

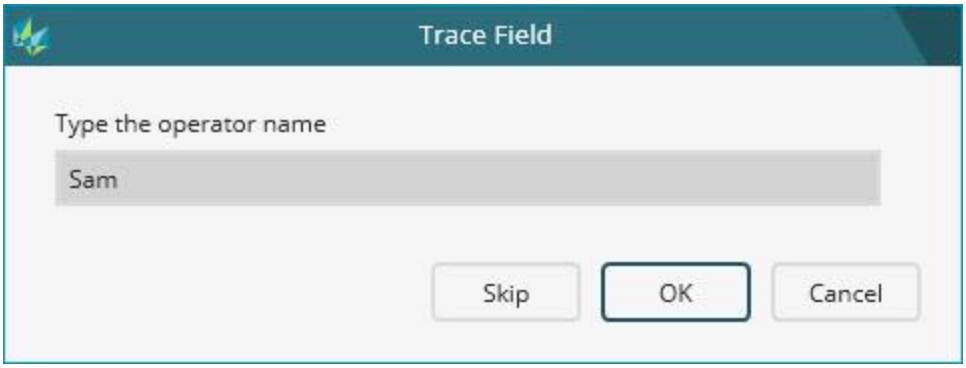
ダイアログボックスで[**ソース**]が[**なし**]に設定されている場合は、すべてのフィールド（名称、メッセージ、または値）に変数を入力できます。「**ソース**」が「**Q-DAS**」に設定されている場合は、「値」フィールドにのみ変数を入力できます。また、TRACEFIELD コマンドに単一の値が含まれている場合にのみ、値の変数を入力することもできます。

ダイアログボックスで**ソース**が**無し**に設定された後の TRACEFIELD コマンドの変数の例を次に示します：

```
ASSIGN/V1="作業者"
ASSIGN/V2="作業者名を入力"
ASSIGN/V3="Sam"
TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=V2 ; V1 : V3
```

実行中の[トレースフィールド]ダイアログボックス

単一の値の場合、[**トレースフィールド**]ダイアログボックスは値を入力または編集するためのボックスが表示されます：



実行中の単一値トレースフィールドダイアログボックス

複数の値の場合、[**トレースフィールド**]ダイアログボックスは値を選択するための一覧を表示します。

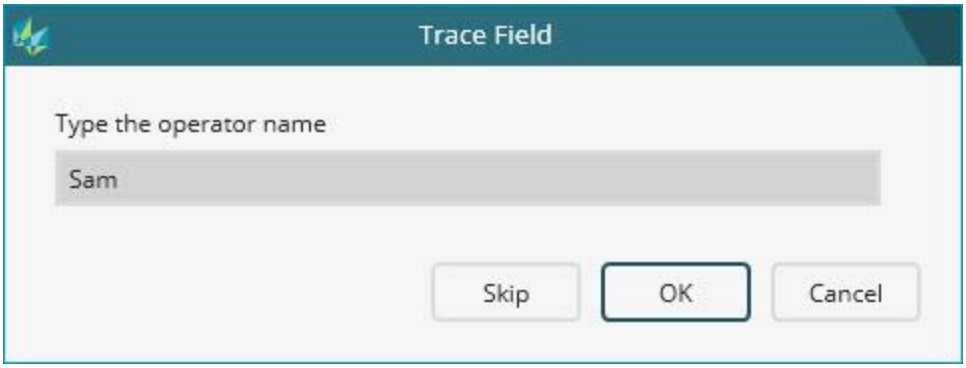
実行中の複数の値のトレースフィールドダイアログボックス

実行例 - 単一の TRACEFIELD コマンド

```
LIN1        =FEAT/LINE,CARTESIAN,UNBOUNDED
             THEO/<4.113,0,-6.449>,<1,0,0>
             ACTL/<4.113,0,-6.449>,<1,0,0>
             MEAS/LINE,2,ZPLUS
               HIT/BASIC,NORMAL,<4.113,0,-5.307>,<0,-1,0>,<4.113,0,-5.307>,USE THEO=YES
               HIT/BASIC,NORMAL,<87.972,0,-7.592>,<0,-1,0>,<87.972,0,-7.592>,USE THEO=YES
             ENDMEAS/
             TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Type the operator name ; Operator : Sam
LIN2        =FEAT/LINE,CARTESIAN,UNBOUNDED
             THEO/<0,4.366,-7.211>,<0,1,0>
             ACTL/<0,4.366,-7.211>,<0,1,0>
             MEAS/LINE,2,ZPLUS
               HIT/BASIC,NORMAL,<0,4.366,-7.302>,<-1,0,0>,<0,4.366,-7.302>,USE THEO=YES
               HIT/BASIC,NORMAL,<0,57.394,-7.12>,<-1,0,0>,<0,57.394,-7.12>,USE THEO=YES
             ENDMEAS/
```

単一のトレースフィールドの例

実行中に、PC-DMIS は通常の**トレースフィールド**ダイアログボックスで単一の `TRACEFIELD` コマンドを表示します：



実行中の単一値トレースフィールドダイアログボックス

スキップ - このボタンはトレースフィールドをスキップし、値を使用しません。トレースフィールドが必要な場合、このボタンは使用できません。

OK - このボタンは、実行されたトレースフィールドの値を受け入れます。

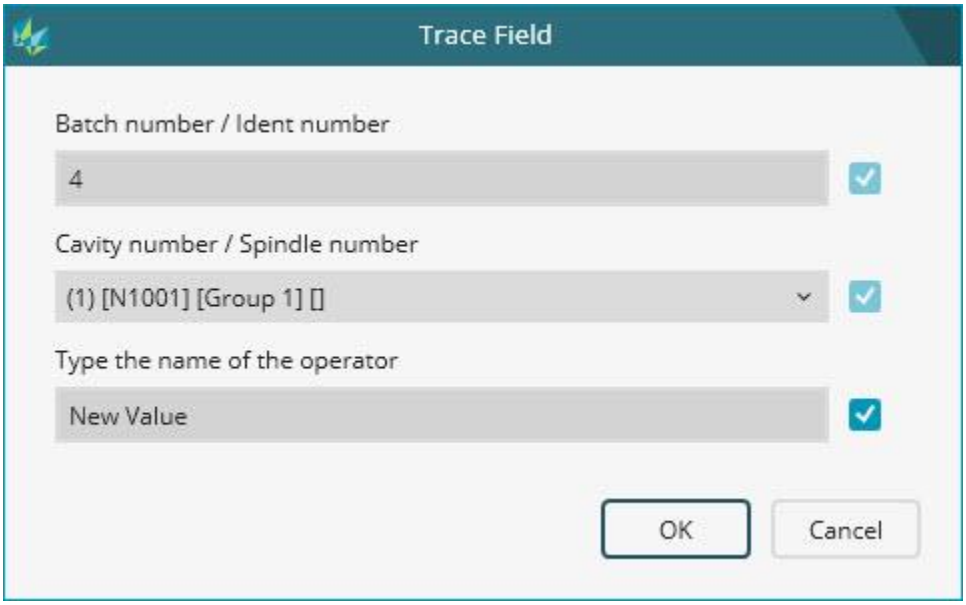
キャンセル - このボタンは、PC-DMIS 測定ルーチンの実行をキャンセルします。

実行例 - 複数の連続した TRACEFIELD コマンド

```
PLN1        =FEAT/PLANE,CARTESIAN,TRIANGLE
             THEO/<42.901,28.561,0>,<0,0,1>
             ACTL/<42.901,28.561,0>,<0,0,1>
             MEAS/PLANE,4
               HIT/BASIC,NORMAL,<77.785,5.533,0>,<0,0,1>,<77.785,5.533,0>,USE THEO=YES
               HIT/BASIC,NORMAL,<80.143,57.7,0>,<0,0,1>,<80.143,57.7,0>,USE THEO=YES
               HIT/BASIC,NORMAL,<9.926,48.571,0>,<0,0,1>,<9.926,48.571,0>,USE THEO=YES
               HIT/BASIC,NORMAL,<3.751,2.439,0>,<0,0,1>,<3.751,2.439,0>,USE THEO=YES
             ENDMEAS/
             TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Batch Number ; K0006 : 4
             TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Cavity Number ; K0007 : (1) [N1001] [Group 1]
             TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Type the name of the operator ; Operator : New Value
COP1        =COP/DATA,TOTAL SIZE=0,REDUCED SIZE=0,
             REF=,
COPFCOLORMAP1=COP/OPER,SURFACE COLORMAP,SHOW PARAMETERS=NO
             SIZE=0,REF=COP1,,
COPFCOLORMAP2=COP/OPER,SURFACE COLORMAP,SHOW PARAMETERS=NO
             SIZE=0,REF=COP1,,
```

連続する 3 つの TRACEFIELD コマンドの例

実行中に、PC-DMIS は連続した複数コマンドを組み合わせて、単一の[**トレースフィールド**]ダイアログボックスに表示します。PC-DMIS は各コマンドのダイアログボックスの代わりに下記のような 1 つのダイアログボックスから情報を収集するため、コマンドの組み合わせによって時間を節約できます



連続トレースフィールド用の複数のトレースフィールドダイアログボックス

チェックボックス - 青いチェックボックスを使用すると、実行中にトレースフィールドを含めるか、またはスキップすることができます。

チェックボックスをオンにすると、PC-DMIS はこれらのトレースフィールドを実行します。

チェックボックスをオフにすると、PC-DMIS はこれらのトレースフィールドをスキップし、それらの値は使用しません。トレースフィールドが必須の場合、そのトレースフィールドではチェックボックスは使用できません。

OK - このボタンは、実行されたトレースフィールドの値を受け入れます。

Q-DAS トレースフィールドの挿入

挿入|統計コマンド| Q-DAS トレース･フィールドを選択して、Q-DAS トレース･フィールドを挿入します。このオプションは、「**Value From**」プロパティが Q-DAS コンフィグレータの **K-Field 設定のセットアップ**ウィンドウで「**TRACE**」に設定されている K フィールドのトレース･フィールドを挿入します。

トレース フィールドの使用

Q-DAS のトレース･フィールドは、Q-DAS 統計ソフトウェアをサポートする測定ルーチンを作成するのに役立ちます。Q-DAS コンフィギュレータの詳細については、Q-DAS コンフィギュレータドキュメントを参照してください。

Q-DAS トレース･フィールドを挿入する前に、STATS/ON,Q-DAS,DFQ コマンドを作成する必要があります。詳細は、「Q-DAS データベースへの統計の送信」を参照してください。

Q-DAS トレース･フィールドを挿入した後、Q-DAS の設定ファイル（<name>.qdascfg.xml）を更新すると、Q-DAS トレース･フィールドを再挿入する必要があります。

これは、編集ウィンドウの Q-DAS トレースフィールドの例です。

```
QDAS_TRACEFIELDS=GROUP/SHOWALLPARAMS=No
    EXECUTION CONTROL=AS MARKED
    ENDGROUP/ID=QDAS_TRACEFIELDS
```

グループを拡張するには、SHOWALLPARAMS を No から Yes に変更します。

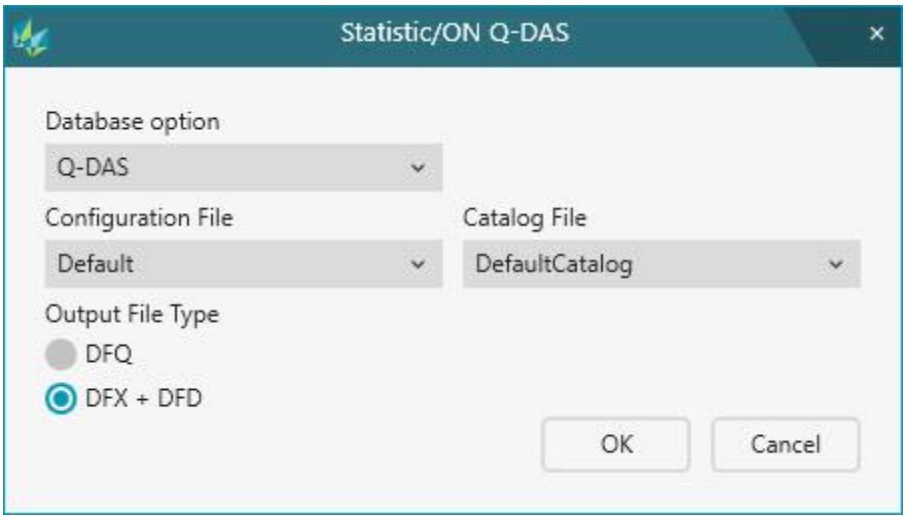
```
QDAS_TRACEFIELDS=GROUP/SHOWALLPARAMS=YES
    EXECUTION CONTROL=AS MARKED
        TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Batch
        Number ; K0006 :
        TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Cavity
        Number ; K0007 : (1) [N1001] [Group 1]
        TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY
        MESSAGE=Operator Name ; K0008 : (1) [P001] [Operator 1]
        TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Machine
        Number ; K0010 : (1) [M001] [Machine 1]
        TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Gage
        Number ; K0012 : (1) [PM001] [CMM 1] [CMM Grp. 1]
        TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Part ID
        Number ; K0014 :
```

```
        TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Order ;
        K0053 :
        TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Part
        Number ; K1001 :
        TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY
        MESSAGE=Contract ; K1053 :
        TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Work
        Cycle / Operation Number ; K1086 :
        TRACEFIELD/DISPLAY=YES,REPORT=NO,DISPLAY MESSAGE=Remark
        ; K1900 :
    ENDGROUP/ID=QDAS_TRACEFIELDS
```

統計を Q-DAS データベースに送信すること

[統計/ ON Q-DAS]ダイアログボックスでは、測定データを Q-DAS 統計ソフトウェアパッケージに送信できます。

挿入|統計コマンド|統計/ON、**Q-DAS** メニューオプションは**統計/ON Q-DAS** ダイアログボックスを開きます。



統計/ON Q-DAS ダイアログボックス

データベースオプション - このオプションは、Q-DAS 統計ソフトウェアが読むことができるファイルを生成します。この一覧は Q-DAS のみを表示します。

設定ファイル - このファイルは、測定ルーチンの実行中に PC-DMIS が収集する必要のある測定データのタイプと追加情報を定義します。一覧から、設定ファイルを選択します。PC-DMIS は、Default.Qdascfg.xml ファイルを提供します。

Q-DAS Configurator を使用して設定ファイルを作成することができます。Q-DAS Configurator の詳細については、Q-DAS Configurator のヘルプファイルを参照してください。

このフォルダには、設定ファイルがあります：

C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\<version>\Q-DAS\Settings

<バージョン> とは PC-DMIS のバージョンを意味します。

カタログファイル - Q-DAS 統計ソフトウェアはカタログファイルを使用して、製造環境に関連する情報を定義します。このファイルは、K フィールドが参照できる管理データやその他のデータを含むテキストファイルです。ユーザーの組織は、Q-DAS ソフトウェアの要件に従ってこのカタログを作成し、使用するために提供します。このファイルは場所によって異なります。カタログファイルの詳細については、Q-DAS Configurator のヘルプファイルを参照してください。リストからカタログファイルを選択します。PC-DMIS は DefaultCatalog.dfd ファイルを提供します。

このフォルダにカタログファイルがあります：

C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\<version>\Q-DAS\Catalogs

<バージョン> とは PC-DMIS のバージョンを意味します。

Q-DAS Configurator は、各測定ルーチン用の Q-DAS データファイルを作成します。Q-DAS データファイルには、Q-DAS 統計ソフトウェアが出力ファイルを生成するために必要な情報が含まれています。Q-DAS Configurator は、Q-DAS データファイルを測定ルーチンと同じフォルダに保存します。ファイル名は次の形式を持っています：

<測定ルーチン名>.QdasData.xml

<測定ルーチン名>は、PC-DMIS 測定ルーチンの名前です。

現在の測定ルーチン用の QdasData.xml ファイルが存在する場合、**設定ファイル**および**カタログファイル**の一覧には QdasData.xml ファイルのファイル名が表示されます。このダイアログボックスでファイル名を変更することはできません。

異なる設定ファイル、カタログファイル、またはその両方を選択するには、Q-DAS Configurator を使用する必要があります。Q-DAS Configurator の詳細については、Q-DAS Configurator のヘルプファイルを参照してください。

出力ファイルタイプ - Q-DAS 統計ソフトウェアは、Q-DAS ASCII 転送フォーマットをサポートしています。このオプションは、Q-DAS がサポートする形式を一覧表示します：

DFQ - このオプションは出力を.dfq ファイルに送信します。

DFX + DFD - このオプションは.dfd 及び.dfx ファイルに出力を送信します。

必要な出力形式を選択します。

OK - このボタンは、`STATS/ON,Q-DAS,DFX+DFD` または `STATS/ON,Q-DAS,DFQ` コマンドを編集ウィンドウに挿入します。

キャンセル - このボタンは変更を破棄し、ダイアログボックスを閉じます。

STATS/ON,Q-DAS,DFX+DFD または STATS/ON,Q-DAS,DFQ コマンドを編集ウィンドウに挿入しません。

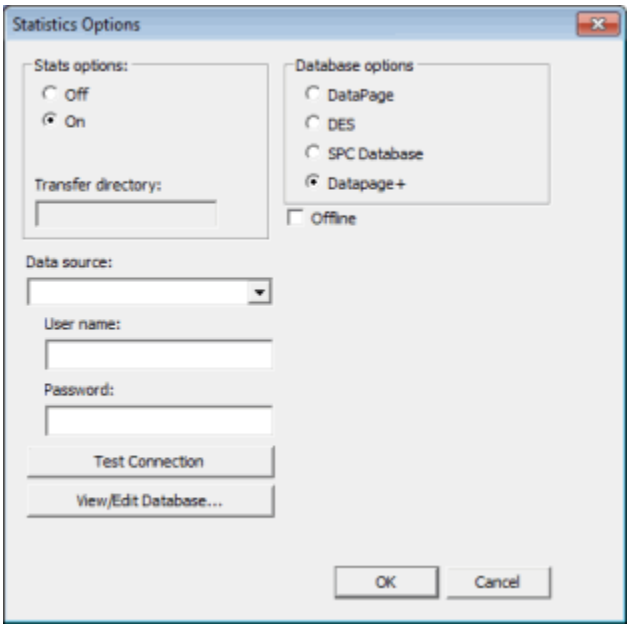
現時点での統計をファイルに送付

オペレーション | 現時点での統計をファイルに送付メニュー オプションを選ぶと、測定ルーチンを実行せずに、データベース、または、XSTATS11.tmp ファイルにデータを送ることができます。

このオプションを選ぶと、STATS/ON コマンドに続く、すべての測定結果、及び、トレース フィールドが、選択されたデータベースに直ちに送信されます。データベースが登録され、STATS/ON コマンドがマーク済みの場合にのみ、統計がデータベースに送信されます。それ以外の場合、PC-DMIS は統計データを XSTATS11.tmp ファイルに送信します。

PC-DMIS ファイルの場所の詳細については、「ファイルの場所について」を参照してください。

「統計オプション」ダイアログ ボックスの使用



統計オプション ダイアログ ボックス

挿入 | 統計コマンド | 統計 メニューオプションを選択すると **統計オプション'**ダイアログ ボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用すると、PC-DMIS にどのように測定結果を取り扱うか伝えることができます。この情報を指定の統計ソフトウェアパッケージデータベースに送信するよう伝えることができます。

統計オプションで、**オン**を選択して **OK** をクリックすると、STATS/ON コマンドが測定ルーチンに挿入されます。STATS/ON が希望の測定結果またはトレースフィールドコマンドの前に挿入されると、その測定結果またはトレースフィールド情報が選択した統計ソフトウェアパッケージに送信されます。

ダイアログボックスの変更は、**データベースのオプション**エリアから選択されたデータベースオプションに応じます。ダイアログボックスの変更エリアについては、**データベースのオプション**サブトピックの説明された項目を参照してください。

統計オプション

データベースのオプション エリアは常に**統計オプション** ダイアログボックスで利用可能です。**データベースのオプション** エリアで、以下のコマンドを使用できます。

- オフ - 統計収集をオフ
- オン - 統計収集をオン
- 転送 - 統計ファイルを新しいディレクトリに転送
- 更新 - データベースを更新
- 記録 - 指定のデータを記録

オフ - 統計情報をオフ (STATS/OFF)

Off

オフオプションを選択すると、`STATS/OFF` コマンドを挿入することで測定ルーチンから送られた統計情報が停止します。*統計オン* オプションを選択するまで、寸法とトレースフィールドコマンドはデータベースへの統計情報を発送しません。

オン - 統計収集をオン (STATS/ON)

On

オンオプションを選ぶと、統計情報が測定ルーチンからデータベースへ送付されます。統計送付がオンの状態では、データを統計ファイルに送付し、その情報を異なるディレクトリに転送し、または、その情報をデータベース アプリケーション内に保存することが可能です。

すべての STATS/ON コマンドを従う測定結果と次の STATS/OFF コマンドの前は統計ファイルまたは次の STATS/TRANSFER、 STATS/UPDATE の実行上のデータベース、または測定ルーチンの最後コマンドに発送されます。STATS/ON コマンドで、同じ測定ルーチン内でも、出力情報を複数のデータベースに発送します。

少なくともひとつの STATS/ON コマンドを含む、測定ルーチンの各実行に当たって、PC-DMIS は、いずれかの統計データベース ディレクトリに、出力内容を送付するか否かを尋ねます。**セットアップ オプション**ダイアログ ボックス (**編集 | 優先設定 | セットアップ**)にある**寸法**タブからアクセスできる**データベース常時更新**チェック ボックスの選択によって、このプロンプトを回避することが可能です。この[**寸法**] タブに関する詳細は、「優先設定」章の「設定オプション: 寸法タブ」を参照してください。

データベースオプションエリアから **DataPage** を選択した場合、PC-DMIS は自動的に実行可能な DPUPDATE.exe を呼び出してまた XSTATS11.tmp ファイルのデータを任意の選択した DataPage のディレクトリに挿入します。DPUPDATE.exe が働くためにユーザが管理者権限で PC- DMIS を実行する必要があります。

同様に **DataPage+**オプションを選択すると DPPLUSUPDATE.exe が呼び出され、その後 DataImporter が呼び出されて XML ファイルを DataPage+データベースにインポートします。

ループの内側で統計をオンにすると、XSTATS11.tmp テキストファイルや XML ファイルなど、生成された統計ファイルに含まれる測定結果と要素 ID の出力が若干異なります。

PC-DMIS ファイルの場所の詳細については、「ファイルの場所について」を参照してください。

STATS/ON コマンドブロック用の編集ウィンドウのコマンドラインは、指定したデータベースの種類によって変化します。すべての STATS/ON コマンドは、最初の行は以下のように開始します。

```
STATS/ON,database option;
```

database option= このトグルフィールドは発送される統計情報のデータベースのタイプを示します。このフィールドは DATAPAGE、DES、SPC_DATABASE または DATAPAGE+のいずれかの値が可能です。ここで選択した内容に応じて、残りのコマンドが変わります。

DATAPAGE オプションを付けると、コマンドブロックは以下のようになります。

```
STATS/ON,DATAPAGE,$
DIRECTORY=directory_name,$
READ=n1,WRITE=n2,MEMPAGES=n3,variable_name1,variable_name2,$
STATS/END
```

SPC オプションを付けると、コマンドブロックは以下のようになります。

```
STATS/ON,SPC_DATABASE,database_name
```

DES オプションを付けると、コマンドブロックは以下のようになります。

```
STATS/ON,DES,DIRECTORY=directory
```

DATAPAGE+ オプションを付けると、コマンドブロックは以下のようになります。

```
STATS/ON,DATAPAGE+,database_name,OFFLINE=y/n
```

```
RECORD=data_list
```

DIRECTORY=directory_name データベースオプションが DATAPAGE または DES の場合、**directory_name** の値は統計データの送り先であるデータベースディレクトリを示す文字列でなくてはなりません。複数のデータベースディレクトリがある場合、この DIRECTORY フィールドはディレクトリが追加されるたびに繰り返されます。その一つ一つが有効なデータベースディレクトリでなくてはなりません。

database_name = データベースオプションが SPC_DATABASE または DATAPAGE+ である場合は、この文字列はデータベースのデータソース名(DSN)を示します。SPC データベースでは、この名前はコンピュータのコントロールパネルの ODBC オプションで作成することができます。DATAPAGE+ データベースでは、DNS は通常 DATAPAGE+ 内部で作成されます。DSN は有効な SPC のデータベースにリンクするよう作成しなくてはなりません。

READ=n1 これは読み取りロックを示します。**n1** は読み取り中に PC-DMIS がデータベース アクセスのために最大何秒待機できるかを示します。デフォルトの設定は、10 秒です。このフィールドは DataPage データベースオプションのみに使用されます。

WRITE=n2 これは書き込みロックを示します。**n2** は書き込み中に PC-DMIS がデータベースアクセスのために最大何秒待機できるかを示します。デフォルトの設定は、20 秒です。このフィールドは DataPage データベースオプションのみに使用されます。

MEMPAGES=n3 これはメモリーページを示します。**n3** はデータベースを開く時、データベーステーブル用に 4K のメモリーページを保持することを示します。このオプションはパフォーマンスに影響します。入力できる最小値は 4 (また、デフォルト) です。このフィールドは DataPage データベースオプションのみに使用されます。

variable_name1 = このフィールドは変数名の設定を示します。DIMENSION_NAME に設定されている場合、測定結果の名前が表示されます。FEATURE-NAME に設定されている場合、要素 ID が表示されます。このフィールドは DataPage データベースオプションが使用されている時のみに使用されます。

variable_name2 = このフィールドはコントロールの計算を使用するかどうかを決定します。CONTRLCALC ON に設定するとコントロールの計算が使用されます。CONTROLCALC OFF に設定するとコントロールの計算は使用されません。

OFFLINE = この はい/いいえ フィールドはオフラインオプションを使用するかどうかを決定します。「はい」に設定すると、RECORD=フィールドが現れ、XML ファイルに書き込む情報を指定できます。このフィールドは DataPage+データベースオプションが使用されている時のみに使用されます。

RECORD=data_list これは XML ファイルに記録するデータの内容を決定します。**data_list** の値は ALL (すべてのデータが XML ファイルに送られることを意味) 、またはカンマ区切りの項目のリストのいずれかです。例えば、測定結果とヒットの情報のみを記録する必要がある場合、DIMENSION, HIT を選択します。このフィールドは DataPage+データベースオプションが使用されている時のみに使用され、OFFLINE=はいの場合のみに利用可能です。

STATS/ON コマンドを支援する PC-DMIS と DataPage+ バージョン

支援されている方法とバージョンについては、「支援される方法のテーブル」を参照してください。

DataPage+ XML の取り扱い

DataPage+ データベース名、および OFFLINE=YES に STATS/ON を使用する場合、生成される XML は実行終了直後 C:\Users\Public\Documents\Hexagon\PC-DMIS\ ディレクトリに作成されます。*このディレクトリはバージョンに依存しません。*これにはトランザクションの日付および時間、DSN、あるいはその他の情報が含まれます。**オフライン**チェックボックスと共に**記録**オプションを使用すると、その他の情報を制限することができます。

いったんファイルが作成されたら、そのファイルを扱うために dpplusupdate.exe はそのファイルを %AppData%/DataPage+/ForStatsFile ディレクトリに移動します。実行中、この DataImporter ツールはそのディレクトリを検索しデータを DataPage+に自動

的にインポートします。DataImporter の使用については、Datapage+ と共にインストールされた文書を参照してください。

XML の名前はそれが生成された時点での現地時間に基づいています。以下の命名形式を使用します。

<YYYY><MM><dd><hh><mm><ss>.xml

<YYYY> - 年を 4 桁で表示

<MM> - 月を 2 桁で表示

<dd> - その月の日にちを 2 桁で表示

<hh> - 時間を 24 時間形式で表示

<mm> - 分

<ss> - 秒

転送 - 統計ファイルを新しいディレクトリに転送 (STATS/TRANSFER)

転送 オプションで、測定ルーチンからの統計情報は `STATS/TRANSFER` コマンドの実行上の指定ディレクトリに転送されます。

このオプションは **DataPage+**の**自動アップデート**オプションまたは Datapage+ データベースオプションの**レコード**オプションから生成される XML ファイルを用いる場合に特に便利です。「レコード」を参照してください。

別のディレクトリに統計情報を転送するには：

1. **転送** オプションをクリックしてください。
2. **転送ディレクトリ** ボックスに、ディレクトリのディレクトリパスを統計情報ファイルを転送したいところへ入力します。

更新 - データベースを更新 (STATS/UPDATE)

Update

更新 オプションは `STATS/UPDATE` PC-DMIS にコマンドが実行するたびに統計データベースを更新するのを指示するコマンドを作成します。統計ソフトウェア アプリケーションがインストールされ、作動している必要があります。

設定オプションダイアログボックスの**測定結果**タブからの**データベース常時更新** チェックボックスを使用すると、ユーザーは STATS ON /コマンドから成る測定プログラム実行終了時に PC-DMIS が表示する「すぐにデータベースを更新しますか？」メッセージを回避することができます。「優先設定」章の「設定オプション：寸法タブ」を参照してください。

記録 - 特定データの記録 (STATS/RECORD)

Record

オリジナルの **Datapage+** 出力は多くの情報をデータベースに送信します。これは、若干の測定ルーチンの実行を停滞させるかもしれません。若干の情報は、要求されさえしないかもしれません。

統計オプションエリアの**記録**オプションを使用すると、データ出力を非常に柔軟かつ高速に行うことができます。これを機能させるには STATS/ON コマンドに続く必要があります。その後、以下を実行します。

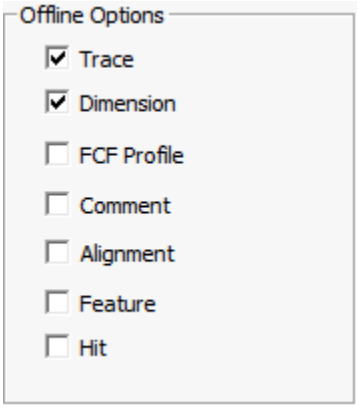
- これは、dpplusupdate.exe ユーティリティをバックグラウンドで実行することによってデータを送信します。これは、Datapage+ データベースへのアクティ

ブな接続が使用されないことを意味します。実際は、定義されたデータベースを持つ必要は全くありません。

- データを XML ファイルに書き込みます。
- STATS/ON または STATS/RECORD コマンドを編集してソフトウェアが XML ファイルに出力するデータを含めることで、目的のデータを取得するよう選択的にターゲットに含めることができます。これは、いかに説明する**オフライン**チェックボックスおよび**オフラインオプション**エリアを使用することで実行できます。

記録およびオフラインチェックボックスの動作方法

オフラインチェックボックスがマークされると、**オフラインオプション**エリアが編集可能になり、XML 出力に記録する特定項目を選択することができます。



特に**記録**オプションを選択しない場合でも**オフライン**がマークされている場合、**OK** をクリックすると、編集ウィンドウの STATS/ON コマンドは記録コマンドに変更され、選択されたオプションを含みます。

例えば、**オフライン**をマークし**追跡**と**測定結果**を選択した場合、コマンドは以下のようになります。

```
STATS/ON,DATAPAGE+,DATAPAGE_PLUS,OFFLINE=YES
RECORD=DIMENSION,TRACE,
```

これは、実行中、何か別のものを送信するよう指示する RECORD コマンドに当たるまで、または STATS/OFF コマンドに到達するまでは、PC-DMIS は**測定結果**および**追跡**情報のみを XML ファイルに送信することを意味します。

ここで、ルーチンの後半で**記録**オプションを選択し、**ヒット**オプションも同様に含めたいと仮定します。コマンドは以下のようになります。

```
STATS/RECORD,DIMENSION,TRACE,HIT
```

このコマンドは STATS/ON コマンドの後に続く限り、XML ファイルに送るデータを制限し、追跡、測定結果、およびヒットの情報を含めます。

データベースのオプション

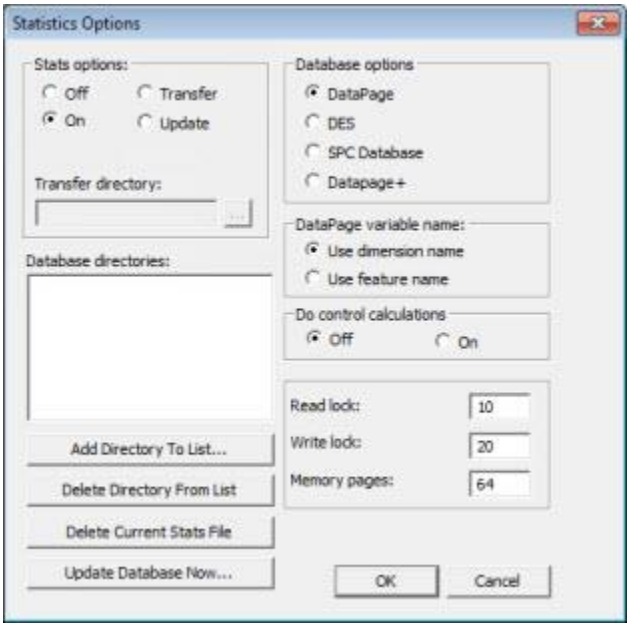
データベースオプション エリアのオプションでは、以下の統計ソフトウェアパッケージのどれが測定情報を受け取るかを決定できます。

- DataPage
- DES
- SPC データベース
- DataPage+

オプションを選択すると、**統計オプション**ダイアログ ボックスがそのオプションに必要な特定情報を表示するよう変わります。

DataPage+のオプションはデフォルトのオプションです。

DataPage オプション

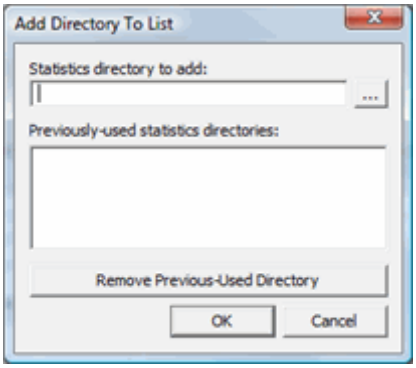


「統計オプション」ダイアログ ボックス - DataPage オプション

Datapage オプションが選択されると**統計オプション**ダイアログ ボックスが、以下の項目を付け加えるために変わります:

データベース ディレクトリ - この一覧は、データベース アプリケーションが存在する様々なディレクトリを表示します。この一覧にディレクトリを追加、または、削除することが可能です。`STATS/ON` コマンドひとつにつき最高で 10 個のディレクトリを選択し、それらに統計情報を送ることができます。

ディレクトリをリストに追加 - DataPage で使用したいデータベースを含むディレクトリを指定できる、**ディレクトリをリストに追加**ダイアログボックスを表示します：



ディレクトリを一覧に追加

このダイアログ ボックスが表示された場合、**[追加する統計データのディレクトリ]** ボックスにデータベースを含むパスを入力でき、または [...] ボタンをクリックして ディレクトリを参照します。次に**[OK]**をクリックして、**[データベース ディレクトリ]** リストに指定されたディレクトリを添加します。

以前使用したディレクトリを削除 を利用して以前に定義されたディレクトリを削除します

リストからディレクトリを削除 - データベースディレクトリリストから選択したディレクトリを削除します。

現在の統計ファイルを削除 - xstats11.tmp ファイルを削除します。

PC-DMIS ファイルの場所の詳細については、「ファイルの場所について」を参照してください。

今すぐデータベースを更新 - 現在のデータベースから取得した統計データでデータベースアプリケーションを更新します。このボタンをクリックして、スクリーン上の手順に従って下さい。これは、データベースを更新するために DPUPDATE.exe を使用しています。

測定プログラムが正常に実行された後、選択された測定結果とトレースフィールド情報が XSTATS11.tmp という名前のファイルに保存されます。このファイル内の情報を、その後、異なるディレクトリに転送、印刷、あるいは、データベース アプリケーションに送付することが可能です。

付記: データベース アプリケーションが入手不可能な場合、PC-DMIS は、XSTATS11.tmp をデータベース内にロードするための更新内容（DataPage アプリケーション用には、DPUPDATE.exe）が発見できないことを告げるメッセージを表示します。

DPUPDATE.exe が働くためにユーザが管理者権限で PC- DMIS を実行する必要があります。

DataPage 変数名 - このエリアは、DataPage でエンティティを特定するために測定結果名または要素名のどちらを使用するか示します。名前の長さは最大１０文字に制限されています。測定結果名または要素名のいずれかを選ぶには、**測定結果名を使用** オプションまたは**要素名を使用** オプションを選択して下さい。

コントロール計算を実行 - DataPage 内で行われるコントロール計算を使用するかどうかを指定するオプションが含まれます。**オン**オプションを選ぶと、公差外コントロール計算が行われます。加えて、コントロール計算を行い、データベース内にパーツ/変数、及び、公差内/外/コントロール インジケータを設定するよう、DataPage 統計更新プログラム（DPUPDATE）に命じられます。これらの計算に基づく、パーツ/変数の色付け(赤/黄/緑)を起動することにより、DataPage のモニター モードを用いて、このデータベースを監視することができます。追加の情報については、DataPage モニター モード アプリケーションに同梱されたヘルプファイルを参照して下さい。

コントロール計算の起動、作動停止を行うには、単に、**オン** オプション、または、**オフ** オプションを選択して下さい。デフォルト設定は**オフ**です。

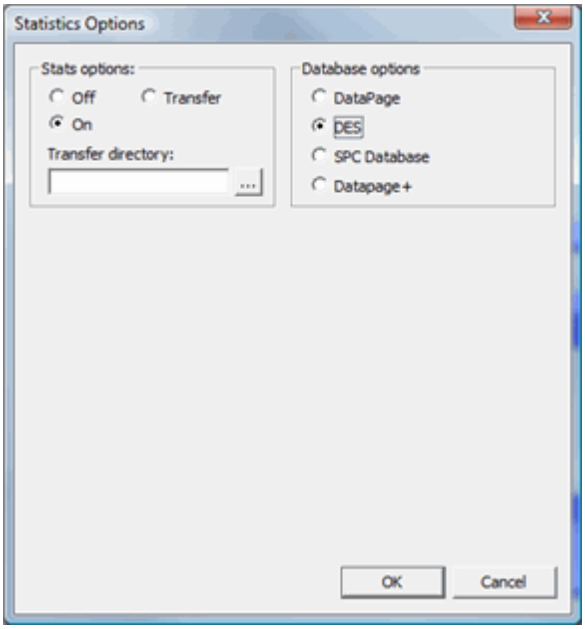
読み取りロック - PC-DMIS が読み取り時にデータベースアクセスを待機する最大時間を秒で指定します。デフォルト値は 10 秒です。

書き込みロック - PC-DMIS が書き込み時にデータベースアクセスを待機する最大時間を秒で指定します。デフォルト値は 20 秒です。

メモリーページ ボックス - データベースを開く際に、データベーステーブルを格納するために 4 K ページの数値を指定します。オープン可能な最小(かつデフォルト)ページ数は 4 です。

DES オプション

DES オプションは、統計データベース プログラム、DES、と共に用いられる場合にのみ機能します。DES が選択されると、**統計オプション**ダイアログ ボックスが変化し、それによって、当ダイアログ ボックスは、**統計オプション**エリア、**データベースのオプション** エリア、**OK**、及び **キャンセル**コマンド ボタンのみを表示します。

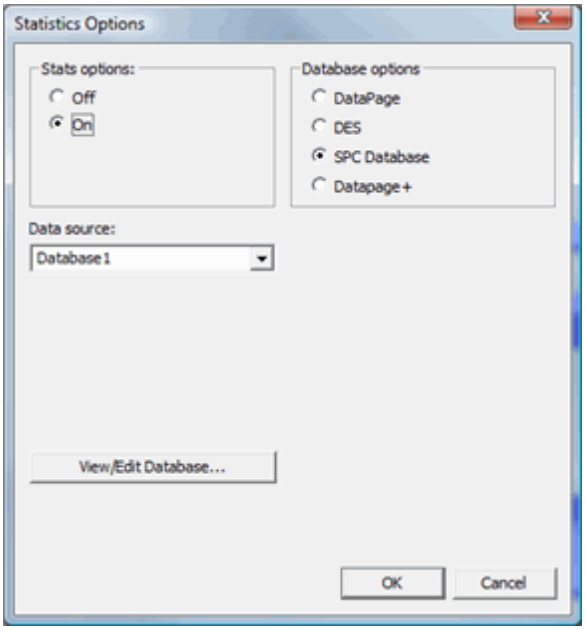


「統計オプション」ダイアログ ボックス - DES オプション

SPC データベース オプション

SPC データベースオプションは PC-DMIS 自分の統計データベース プログラム、 SPC と共に用いられる場合にのみ機能します。**SPC データベース**オプションが選択されると**統計オプション**ダイアログ ボックスが、以下の項目を付け加えるために変わります:

- **データソース**リスト
- **データベースの閲覧/編集**ボタン



「統計オプション」ダイアログ ボックス - SPC データベースオプション

データソースリスト

このリストに定義済みのデータソースが含まれます。PC-DMIS 測定結果から統計データを収集して保存するために、選択したデータソースと PC-DMIS の間に接続を設定できます。

3 つのデータソースを設定する方法があります。

「管理ツール」から「ODBC データソース」を使用

データ源リストで、データ源の名前(DSN)を選択します。はじめ、DSN はコンピューターのコントロール パネルにある、オープンデータベース接続(ODBC)オプションを用いて作成されます。

DSN を作成する必要がある場合:

1. ウィンドウ**コントロールパネル**にアクセスします。
2. （Vista を使用した場合に、**クラシック表示**で）、**管理ツール**を選択します。
3. **ODBC データ源**か **データ源(ODBC)** アイコンをダブルクリックして下さい。
4. DSN を作成するには、お客様の作動システムのヘルプ ファイル内の手順に従って下さい。

データベースウィザードを使用

PC-DMIS 内の[**ウィザード**]ツールバーより、[**データベースウィザード**] アイコンをクリックすると、簡単にデータベースを作成できます。データベースの作成プロンプトに従うだけす。「ツール バーの使用」の章の「ウィザード ツール バー」を参照して下さい。

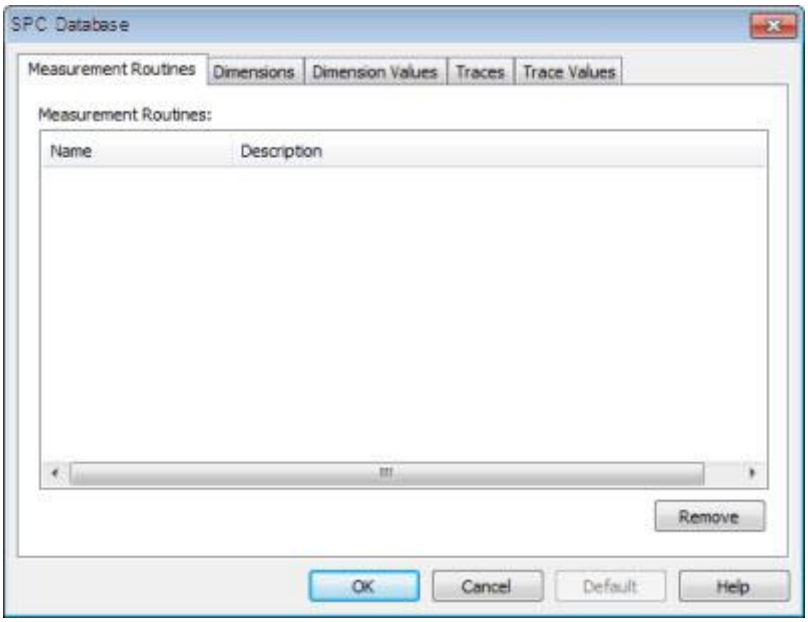
Datapage+内で[データベース接続プロパティ]ダイアログ ボックスを使用

1. Datapage+から、**ツール | データベース接続**を選択します。**データベース接続のプロパティ**ダイアログ ボックスが表示されます。
2. Datapage+以内のドキュメントを利用して、ダイアログボックスに必要事項を記入て DSN を作成します。

ODBC を使用して、PC-DMIS は SPC データベースに直接にデータをパスして、データも SPC データベースをサポートする統計パッケージ内でビューされます。

データベースの閲覧/編集ボタン

データソース ボックスから選択された有効なデータソースは一旦に選択されたら、**データソース** ボタンが使用されます。Clicking this このボタンへのクリックで、SPC データベースのデータは **SPC データベース** ダイアログ ボックスのビューまたは消去されます。



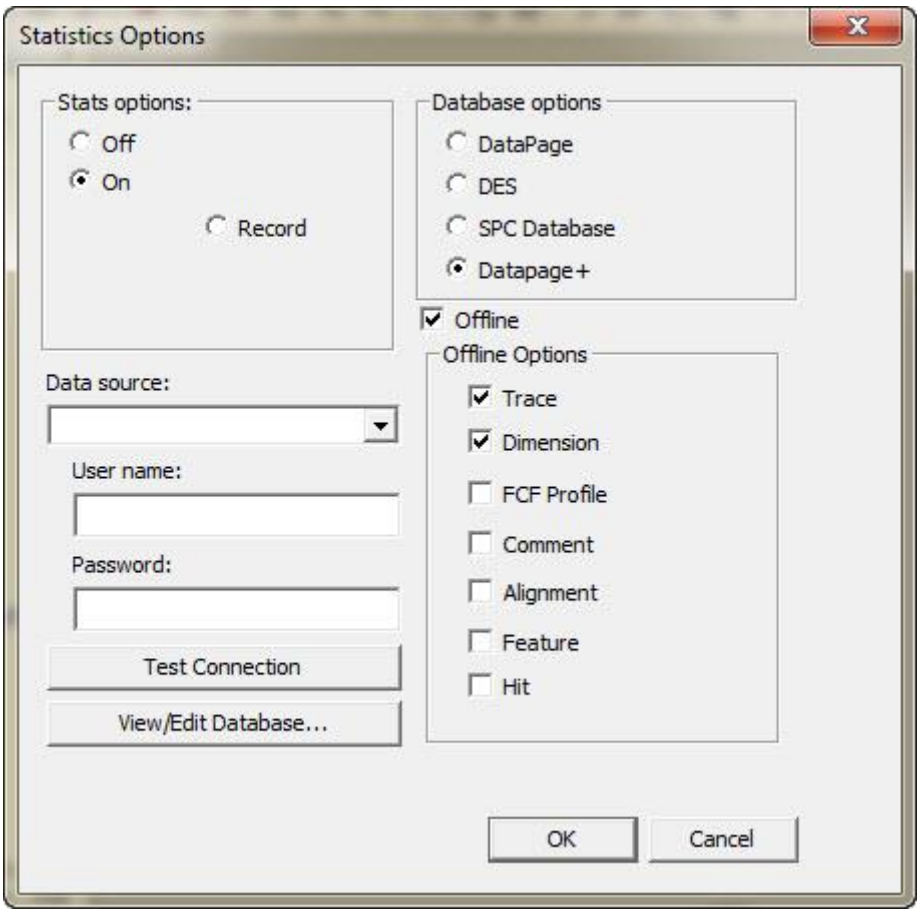
SPC データベース ダイアログ ボックス

SPC データベースはダイアログボックスの以下のタブを使用して PC-DMIS 以内にビューされます。

- 測定ルーチン
- 測定寸法
- 測定寸法値
- ﾄﾚｰｽ
- 値のﾄﾚｰｽ

SPC データベースメニューオプションを使用してデータベースをビューできます。

DataPage+オプション



Statistics オプション- Datapage+ オプション

データベースのオプション ダイアログ ボックスから **Database +** を選択した場合、**統計オプション** ダイアログ ボックスは Datapage+で使用するデータベースに接続できるこれらのオプションを提供します：

統計オプションアリア

このオン/オフチェックボックスは統計資料が測定ルーチンからデータベースに送信することを許可か禁止します。統計オプションエリアの**記録**オプションを使用すると、データ出力を非常に柔軟かつ高速に行うことができます。、詳細については「オフ」、「オン」と「録音」のトピックを参照してください。

データソースリスト
このリストは SPC データベース オプショントピックに説明された**データソース**と同じように操作します。

[**ユーザー名**]ボックス
[**ユーザー名**]ボックスには、パスワード保護されたデータベースに接続するためのユーザー名を入力します。

[**パスワード**]ボックス
パスワードボックスには、パスワード保護されたデータベースに接続するパスワードを入力します。

テスト接続ボタン
このボタンは PC-DMIS と指定されたデータ源の間の接続を構築することを試みます。データベースへの接続は成功になった場合、成功のメッセージが表示されます。

ビュー/編集ボタン
このボタンは SPC データベース オプショントピックにテーブルで説明された**データベースの表示/編集**情報と同じように操作して、SPC データベースではないデータベースは除きます。

データベースオプション領域
この領域には、測定情報を受信する統計ソフトウェアパッケージを決定します。詳細については、「データベース·オプション」を参照してください。

オフラインチェックボックス
オフラインモードでローカル DataPage+データベースにデータを送信したい場合は、このチェックボックスをオンにします。「データをローカル Datapage+のデータベースに送信する」及び「レコード」

詳細については、「ローカル Datapage+のデータベースにデータを発送する」ピックを参照してください。

ローカル Datapage の+のデータベースにデータを発送します。

PC-DMIS から Datapage+に使用されるローカルデータベースまで統計データをするには、新しいデータベースを作成する必要があります。

Legacy Datapage データベースは Datapage +と異なるデータベース構造を使用しています。このため、Legacy Datapage データベースのデータベース構造を Datapage +内で使用することはできません。既存のデータ設定時に構成を続行するには、**ツール|データベースのインポート** メニュー項目を使用してデータダンプ (またはエクスポート) を実行してデータを新しい Datapage +データベースにインポートします。詳しくは、「ASCII ファイルからデータをインポート」に関する Datapage +のドキュメントを参照してください。

データベースを作成したら、支援される PC-DMIS 及び DataPage+のバージョンを使用している場合は、`STATS/ON` コマンド内からのデータベースに接続できます。支援されている方法とバージョンについては、「支援される方法のテーブル」を参照してください。

ステップ 1: .NET Framework v3.5 のインストール

データを PC-DMIS に送信する前に、お使いのコンピュータシステムに .NET Framework v3.5 がインストールされている必要があります。必要な場合、以下のリンクよりインストールすることが可能です。

http://msdn.microsoft.com/en-us/netframework/default.aspx

ステップ 2 ：DataPage+データベースの新規作成

Datapage+で新しいデータベースを使用したい場合には、Datapage+内のデータベース作成を使用する必要があります。これをするには、**Datapage+**を開始し、**ツール| データベース接続**を選択します。新しいデータベース作成の情報について、Datapage +のマニュアルを参照してください。

これは自動的にデータベースとデータソースを作成して PC-DMIS 内から接続します。データベースを作成したら、以下の手順をフォローして既存のデータベースに接続します。

ステップ 3: 既存のデータソースと DataPage+データベースに接続する

このステップは既存のデータソースとデータベースへ `STATS/ON` コマンドに接続する方法を説明します。

1. **挿入| 統計コマンド| 統計**を選択します。**統計オプション** ダイアログ ボックスが表示されます。
2. **データベースオプション** エリアから **Datapage+** を選択します。
3. **データソース** リストから、データソース名を選択します。必要な場合には、該当するボックスにユーザー名とパスワードを指定します。また、**オフライン**チェックボックスを使用することでデータをオフラインで送信することもできます。この場合、データベースと接続を確立する必要はありません。以下の「データベース接続(オフライン)を使用しないで Datapage+ 情報を送信」を参照してください。
4. **接続をテスト**をクリックします。正しくものを設定する場合には、「成功」というメッセージを取得します。

ローカル Datapage の+のデータベースにデータを発送します。

> Datapage +に付属のデモデータベースは表示専用です。これを使用して PC-DMIS からデータを送信することはできません。

5. **OK** をクリックして、**統計オプション**ダイアログ ボックスを閉じて下さい。今、`STATS/ON` コマンドは指定したデータソースへ統計データを送信します。最後の `STATS/ON` コマンドは以下のように見えるかもしれません：

```
STATS/ON,DATAPAGE+,dpplus_database
```

これは dpplus_database という名前の既存データベースに接続します。

データベース接続(オフライン)を使用しないで Datapage+ 情報を送信

「記録」トピックを参照してください。

DataPage+データベースに XML データのインポート

また、DataPage+ データベースに XML ファイルからの統計データをインポートすることができます。これらの方法を使用して XML ファイルに統計データを送信することができます。

- DataPageStats.exe の使用
- XMLSTATS/ON の使用

その後、また、DataImporter.exe (DataPage+のインストールディレクトリに) と呼ばれるユーティリティを使用することができます。DataImporter.exe は、生成された XML ファイルを含むディレクトリをチェックします。その後、.xml ファイルからデータをデータベースに引き出すことができます。

DataImporter.exe の詳細情報については、DataPage+ドキュメントの「DataImporter.exe の使用」を参照してください。

より詳細な情報については、Datapage+ に同梱されている ReadMe.doc ファイル、および Datapage +ドキュメントの「XML の統計ツール」セクションを参照してください。

DataPageStats.Exe で統計データを XML ファイルへ送信

DataPage+ インストールディレクトリにある DataPageStats.exe ユーティリティを使用して、XML ファイルに統計情報を送信することができます。パーツのルーチンでは、この exe ファイルを指していることを外部コマンドを追加します。必要に応じて、測定ルーチンの開始あるいは終了にコマンドを置いてください:

- 一緒にすべてのデータを受信したい場合は、パートルーチンの終了にコマンドを配置する必要があります。
- 外部コマンドの実行が終了された後、データを受信したい場合は、測定ルーチンの先頭に**-listening** パラメーターを備えたコマンドを挿入してください。詳細と例については、DataPage+のマニュアルの「DataPageStats.exe を使う」を参照してください。

DataPageStats.exe ユーティリティは、各実行で統計データと xml ファイルを作成します。

支援されている方法とバージョンについては、「支援される方法のテーブル」を参照してください。

XMLSTATS/ON で統計データを XML ファイルへ送信

`XMLSTATS/ON` コマンドを使用することで統計データを XML ファイルへ送信することができます。これにより、統計データを簡単なテキスト形式でアクセスし、サードパー

ティー製のツールを使用するために手動で解析できるようになります。支援されている方法とバージョンについては、「支援される方法のテーブル」を参照してください。

XMLSTATS/ON このコマンドは Datapage+に同梱されていた DataPageStats.exe という名の以前の XML 自動エクスポートユーティリティを置き換えます。次に、Datapage+の PcdmisXMLStatsToDatabase.exe ユーティリティを使用してディレクトリを監視し、.xml ファイルからデータを取出しデータベースへと送ります。この方法については Datapage+ マニュアルを参照してください。これが DataPageStats.exe とどのように異なるかについては、下記の「How_XML_STATS_ON_Differs_from_DataPageStats.Exe: 」を参照してください。

XMLSTATS/ON の使用

XMLSTATS/ON コマンドを挿入するには、"XMLSTATS"と入力し、次に編集ウィンドウのコマンドモードでキーボードから TAB キーを押すか、[**挿入 | 統計コマンド | XML 統計**] メニュー項目を選択します。このコマンドは次の構文を持ちます:

XMLSTATS/<TOG1>,<Directory>

> **<TOG1>** - このフィールドは ON または OFF のいずれかの間で切り替わり、ユーザーはこのコマンドに続く測定コマンド用に統計データをエクスポートするかどうかを選択できます。
>
> **<ディレクトリ>** - このフィールドはファイルが作成されるディレクトリのパスとして文字列(引用符なし)を取ります。デフォルトのパスは測定ルーチンが保存されているディレクトリです。

XMLSTATS/ON は実行中 XML の書き込みのみ行います。指定のディレクトリへファイルを書き込み、以下の形式を使用して自動的に.xml ファイル名を生成します。

<測定ルーチン>_<日>-<月>-<dd>-<YYYY>_<hh>_<mm>_<ss>.XML

> **<測定ルーチン>** - PRG 拡張子のない測定ルーチン名です。

<曜日> - 測定ルーチンが実行された現地時間での曜日名です。

<月> - 測定ルーチンが実行された現地時間での月名です。

<日> - 現地時間の日を 2 桁で表します。

<年> - 測定ルーチンが実行された現地時間での年を 4 桁で表します。

< hh > - （ 24 時間の現地時間で）測定ルーチンが実行された時間。

< mm > - （ 現地時間で）測定ルーチンが実行された時の分。

< ss > - （ 現地時間で）測定ルーチンが実行された時の秒。

すなわち、現地時間の 2010 年 8 月 12 日午後 2 時 40 分 15 秒きっかりに実行された "Test.prg" 測定ルーチンは以下のようなファイル名となります: *Test_Thursday_August-12-2010_14_40_15.XML*

XML ファイルには XMLSTATS/ON 以降の、実行が終了するまで、または実行が XMLSTATS/OFF コマンドに到達するまでのすべてのコマンドが含まれています 。ファイルの書き込み中に実行が別の XMLSTATS/ON コマンドに到達した場合、XML ファイルには終了を意味する</ExecutionTransaction>タグが書き込まれ、その後次の XMLSTATS/ON コマンドが開始を意味するもうひとつの<ExecutionTransaction>タグを書き込めるようになります。

たとえば、この擬似測定ルーチンを持っていたと仮定します。

```
XMLStats/ON
Dimension1
XMLStats/OFF
Dimension2
XMLStats/ON
Dimension3
```

実行後、PC-DMIS は 2 つの<ExecutionTransaction>タグのあるファイルを 1 つ生成します。最初のタグには以下の Dimension1 が含まれます:

```
<ExecutionTransaction DateTime="Sometimestamp">
    <XMLStats コマンドデータ>
    <Dimension1 データ>
</ExecutionTransaction>
```

2 番目に生成されたファイルには以下の Dimension3 が含まれます:

```
<ExecutionTransaction DateTime="Sometimestamp">
    <XMLStats コマンドデータ>
    <Dimension3 データ>
</ExecutionTransaction>
```

XML STATS/ON は以下の点で DataPageStats.Exe と異なります。

- XMLSTATS/ON は DataPageStats.exe より高速です。
- DataPageStats.exe が行う出力をすべて行いますが、さらに多くの出力も含まれています。
- DataPageStats.exe を使用する際に行っていた、ルーチン終了時に外部コマンドを挿入する必要がありません。
- 必要に応じて XMLSTATS コマンドをオンまたはオフにすることで、XML ファイルに送信するデータを選択することができます。
- XMLSTATS は各<ExecutionTransaction>タグのペア内にタイプスタンプを追加します。さらに、上記で説明したように、ファイル名はパート名および実行時間から構成されます。

支援された方法のテーブル

PC-DMIS からデータをインポートするには、PC-DMIS と DataPage+のいずれかのバージョンで DataPageStats.exe を使用することができます。STATS/ON コマンドを使用したい場合は、下の表を考慮してください：

DataPage+	PC-DMIS	支援された方法
バージョン 5.0 及びこの以前のバージョン	2012 MR1 より前のバージョン	DataPageStats.exe
	2012 MR1 以降のバージョン	DataPageStats.exe STATS/ON XMLSTATS/ON
5.1 以降のバージョン	2012 MR1 より前のバージョン	DataPageStats.exe
	2012 MR1 から 2015.0 までのバージョン	DataPageStats.exe XMLSTATS/ON
	2015.1 及び以降のバ	DataPageStats.exe STATS/ON XMLSTATS/ON

	ージョン	

Q-DAS チャートコマンドの使用

Q-DAS チャートコマンドは、PC-DMIS に、Q-DAS および PC-DMIS データの両方を含むプロセスチャートを生成するよう指示します。このコマンドは、Q-DAS データベースからデータを取得し、そのデータと PC-DMIS の現在の実行結果をレポートのプロセスチャートに結合します。

これは、現在の実行結果を Q-DAS データベースに挿入しません。これを行うには、STATS/ON コマンドを使用する必要があります。詳細については、「Q-DAS データベースへの統計の送信」を参照してください。

このトピックでは、Q-DAS サーバーがインストールされており、Q-DAS データベースにデータが存在することを前提とします。Q-DAS の設定方法については、Q-DAS のインストールと設定のマニュアルを参照してください。

手順

1. コンピュータが Q-DAS データベースと通信する Q-DAS ウェブサーバーに接続できることを確認します。

    - 組織内にインストールされ、構成された Q-DAS から接続情報を取得できます。
    - Q-DAS Configurator（**操作| Q-DAS |コンフィグレータを開く**）から、**設定 | Q-DAS Webservice** を選択し、ウェブサーバーへのリンクを入力します。

2. PC-DMIS では、すでに Q-DAS データベースにデータを送信している測定ルーチンを開きます。
3. 編集ウィンドウで、実行する寸法がマークされたこと確認してください。
4. 寸法コマンドの下のどこかをクリックします。
5. [**挿入|統計情報|Q-DAS チャート|個別**]を選択して、Q-DAS Chart コマンドを挿入します。
6. 特性 ID と取引数を備える Q-DAS Chart コマンドを変更します。ダイアログボックスでこれを行うことができます：

   A. コマンドで F9 キーを押して、**Q-DAS データの選択**ダイアログボックスを開きます。
   B. ダイアログボックスから、[**取引**]ボックスに、チャートに表示する取引数を入力します。
   C. [**特性**]一覧から、使用する特性を選択します。
   D. 「**OK**」をクリックして、「編集」ウィンドウのコマンドを更新します。

7. 「**ファイル | 実行**」を選択して測定ルーチンを実行します。

コマンドについて

[**挿入| 統計情報| Q-DAS チャート|個別**を選択して、編集ウインドウにコマンドを挿入します。編集ウィンドウのコマンドは次のようになります：

```
Q_DAS_CHART/TYPE = TOG1, CHARACTERISTIC/TOG2,LAST=TOG3
```

TOG1 =このフィールドにはグラフの種類が表示されます。PC-DMIS は、INDIVIDUAL のみを支援します。

TOG2 =このフィールドは、チャートに報告する特性 ID を決定します。例えば、このフィールドが LOC3.X の場合は、LOC3 の ID を持つ位置寸法から X 軸をレポートすることを意味します。

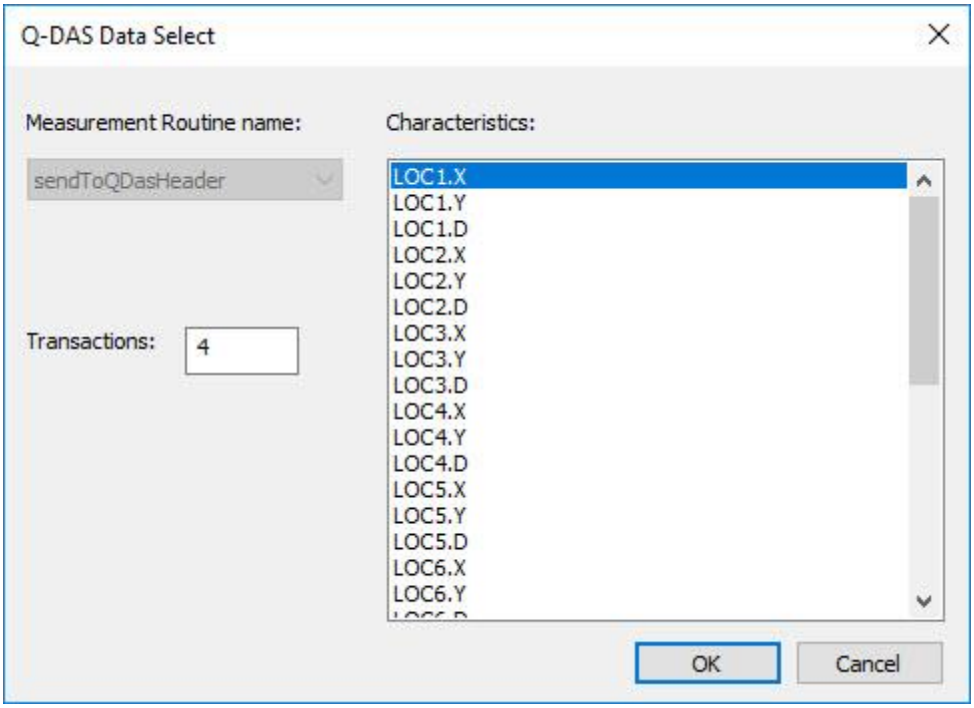
TOG3 =このフィールドは、取引の数を決定します。このコマンドは、現在の実行を取引の 1 つとして使用します。この値は、データベースから少なくとも 1 つの取引を現在の実行とともに取得する必要があるため、少なくとも 2 つでなければなりません。

例えば、Q-DAS データベースに 25 の取引があるとします。TOG3 に値 5 を入力すると、このコマンドはデータベースから 4 つの取引を取り出し、合計 5 つの取引の現在の実行と結合します。25 の値を入力すると、コマンドはデータベースから 24 の取引を取得し、現在の実行に合計 25 を加えます。値がデータベース内の取引数を超える場合、コマンドはデータベースからすべての取引数を取得します。

Q-DAS チャートコマンドは、特性 ID で参照される寸法の下に存在する必要があります。

特性の追加

コマンドの LAST =フィールドに特性 ID を手動で入力するか、またはコマンド F9 を選択して **Q-DAS データの選択**ダイアログボックスから特性を選択することができます。



Q-DAS データの選択ダイアログボックス

測定ルーチン名 - この項目には、測定ルーチンの名前が表示されます。PC-DMIS は、この値を編集ウィンドウのヘッダー情報から取得します。ここでこれを編集することはできません。

特性 - この一覧は、編集ウィンドウ内のカーソルの現在の位置より上にあるすべての寸法の特性を示します。

トランザクション - このボックスには、チャートで使用するトランザクションの数が表示されます。これらのトランザクションの 1 つが現在の実行です。他は Q-DAS データベースから来ます。これは、上記のコマンドの説明の **TOG3** の値に相当します。

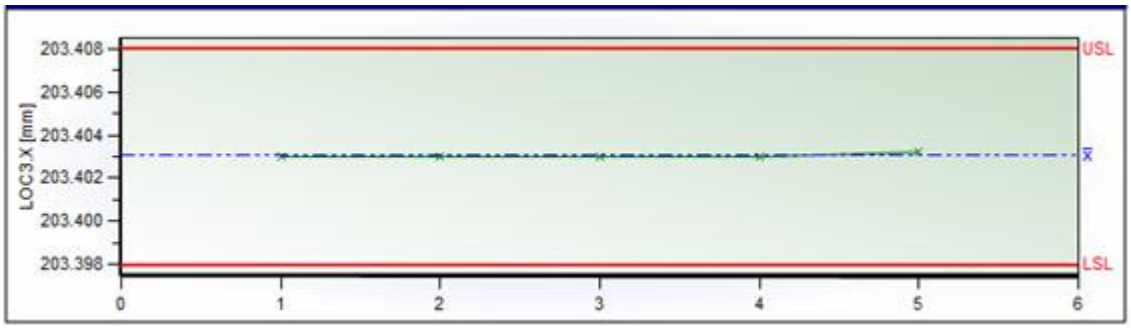
サーバーと通信してダイアログボックスを開くには、数秒かかることがあります。

レポートにグラフを表示すること

レポートのテンプレートを使用し、TextReportObject を持っている場合は、グラフがレポートに表示されます。表示されない場合は、[**レポート**]ダイアログボックスにアクセスし、[**画面キャプチャを表示**]チェックボックスをオンにする必要があります。詳細については、「測定結果のレポート」章の「テキストレポートの編集」を参照してください。

カスタムレポートを使用する場合は、[編集]ウィンドウの[要約]モードからカスタムレポートに直接チャートをドラッグアンドドロップすることもできます。詳細については、「測定結果のレポート」の章の「カスタムレポートの作成」を参照してください。

サンプルチャートは、レポートに次のようなビットマップイメージとして表示されます。



トラブルに対処

「接続が失敗しました」エラー

これは、PC-DMIS が Q-DAS データベースから情報を渡すウェブサーバーと通信できないことを意味します。Q-DAS Configurator（**操作| Q-DAS |コンフィグレータを開く**）からウェブサーバを定義できます。Q-DAS Configurator が開いたら、

Q-DAS Configurator から**セットアップ | Q-DAS Webservice** を選択します。詳細は、「Q-DAS Configurator」のマニュアルを参照してください。

「[<名前>]が見つかりませんでした」

これは、PC-DMIS が Q-DAS データベース内のルーチン名を見つけることができないことを意味します (<Name>は測定ルーチンの名前を表します) 。まず、`STATS/ON` コマンドを介して Q-DAS データベースにデータを送信する必要があります。

「特性<ID> ....」 エラー

これらのエラータイプの 1 つは、PC-DMIS が測定ルーチンで特性 ID を特定できないことを意味します。特性が見つからなかったか、実行のマークが付いていないか、または実行中にスキップされました。この ID が実行されることを確認してください。